

AIDS UPDATE

No.2 1998.9.1

広島大学医学部附属病院
エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部副部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

『HIV感染症の臨床- 総論 -Ver.14』

医療機関対象のエイズ講演会で配布しているテキストです。「中四国エイズセンター・ニュースレター」の号外版として、院内配布いたします。エイズはここ2年で病気の理解や治療が大幅に変化しました。なるべく最新の知識を身につけたいものです。



朝日新聞社：SCIaS 1998年9月4日号 「国際エイズ会議」の報告記事

第12回国際エイズ会議は6月28日～7月2日にジュネーブ市で開催されました。輸血部の高田、藤井は広大病院で行なった研究成果を発表してきました。この記事は朝日新聞科学部の記者によるもので、私たちが行っているエイズ診療の“成果”と“課題”が書かれています。

厚生省木村班平成7年度 針刺し事故防止対策マニュアル

医療機関でエイズの講演をしますと「事故対策がわかったら安心」という雰囲気があります。医療機関におけるエイズ対策の目標は、「HIV感染者を早期にみつける」、「HIV感染症に関係した疾患を早期に診断し治療する」ことが優先されるべきです。その後ろに「HIVの院内感染を起こさない、起こったときに早期に対処する」という目標も付随します。ほとんどが他の疾患と共通の“針刺し事故”ですが、木村班が昨年作ったマニュアルを配布します。1997年10月に配布した広大病院のマニュアルと合わせてご利用下さい。

<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。

[TAKATA]